栄養教諭を中核とした食育推進事業
事業結果報告書

都道府県名	青森県
推進地域名	青森市　むつ市

1. 事業推進の体制

食育推進委員会
開催回数　２回
委員等　校長、栄養教諭、学識経験者、教育事務所指導主事、市町村担当者

地域食育会議の開催
開催地域　６地域
開催回数　地域ごと各２回
参集範囲　教諭、栄養教諭、教育事務所指導主事、市町村教育委員会担当者

推進地域の実践
推進地域　栄養教諭配置の市町村２地域
・検討委員会の設置
・食育推進事業の実施
（食育体験活動、親子料理教室、交流給食会、食と健康教室等）
・食育啓発資料の作成
・地域事業発表会の開催

2. 具体的取組等について

テーマ1	小学校、中学校、高等学校を通じて、子どもたちが主体的に食育に取り組むための体制づくり

【県】

１　食育推進委員会の開催（４月）・・・市町村教育委員会、教育事務所が出席

２　栄養教諭所属校校長等連絡協議会の開催（４月、２月）
　栄養教諭配置の校長、市町村教委、学校給食センター、栄養教諭、教育事務所により、栄養教諭を中核とした食育のあり方について協議

３　あおもりっ子食育推進チームによる活動
（各地域小・中・高校生の代表４０名による活動）
　食育体験活動、あおもりっ子食育新聞の発行及び食育フェスタの企画運営（５月、７月、１２月）

４　地域子ども食育会議の開催
（６～７月、１０月　６地域ごと２回ずつ開催）
　各市町村の代表の小・中学生及びその地域の高校生による地域の食体験、食育フェスタの発表、展示の作成等実施

５　あおもりっ子食育フェスタの開催（１１月）
（児童生徒、教職員、栄養教諭、市町村教委、食育関係者、保護者、一般参加者等５００名参加）
　食育推進チームを中心に地域子ども食育会議のメンバーである小、中、高校生約１００名が一堂に会し、各地域の食育の実践を発表するとともに子どもの視点に立った食育を発信

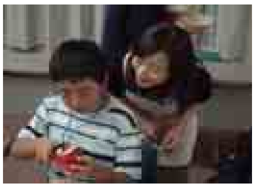
①食育マスコットとレッツゴー
②地域の食育紹介
③食育トーク「トリオ★ザ★ポンチョスのうっちゃん　まこっちゃん」
④あおもり食育大作戦
⑤青森の農産物博士になろう
⑥りんご皮むき・豆つかみチャンピオン
⑦あおもり子ども食育宣言
⑧食育に関する展示　（関係県立高等学校､食育関係団体等）

6　子ども食育新聞の発行（１月発行）　　児童生徒による原稿作成

7　学校における食育講演会の開催（１月）（教職員、学校給食･食育関係者等１７７名参加）
①講演「学力・体力・気力の向上は食生活の立て直しから」
　東海大学体育学部　　教授　小澤　治夫
②実践発表「栄養教諭が行う食に関する指導の実践」
　弘前市立致遠小学校　栄養教諭　阿保　由美子
　十和田市立東中学校　栄養教諭　小　向　　明
③研究協議「学校・家庭・地域が連携した学校における食育の進め方」
　指導助言者　青森市立三内西小学校　校長　中村　泰子

テーマ2　体験活動を通じた各地域の産物、食文化等の理解を促進するための方策

1　あおもりっ子食育推進チームによる活動
　食育体験活動
　・ご飯を中心とした食事
　・県産品を使ったバイキング給食



2　地域子ども食育会議
　・地域の食体験（郷土料理、地場産物を使った調理実習等）
3　あおもりっ子食育フェスタ
　あおもり食育大作戦
　　・青森米でおにぎりづくり
　　・せんべい汁・けの汁は青森の味
　りんご皮むき・豆つかみチャンピオン

4　子ども食育新聞の発行（１月発行）
5　食育推進地域における実践・・・別添のとおり

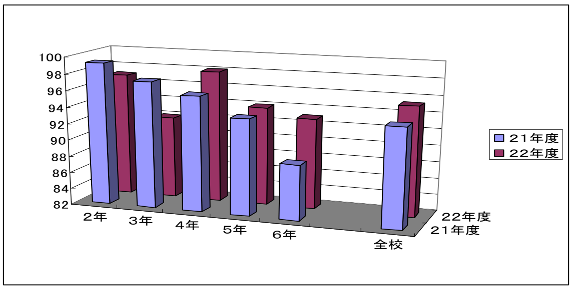
テーマ3　家庭・地域への効果的な普及啓発を行うための方策

・食育啓発資料の作成・配付
・地域事業発表会の開催
・食育だよりの作成・配付
・報告書の作成

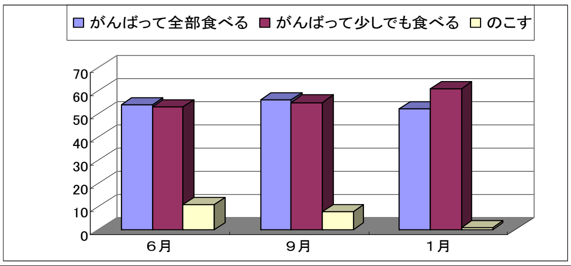
数字で変化のあった事項について

【青森市】

① 朝食摂取の割合はもともと高かったが、２２年度に調査した結果、各学年や全校において、さらに摂取割合が高くなった（２２年度の学年における比較のため、１年掲載せず)。特に保健学習で朝食の重要性を学んだ４年生が高くなっている。



② 食に関する指導を行った後、嫌いな食べ物でも食べてみようとする児童が増えた。※２年生「給食で嫌いな料理や食品が出たときどうしますか」という質問に対しての回答。



事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

・２年間継続して実施してきたことにより、食育推進協議会、栄養教諭所属校校長等連絡協議会及び地域食育会議では、市町村の食育担当者、栄養教諭配置の学校、教育事務所の外、県民局の食育担当も加わり、子どもの食育のあり方、学校現場の食育の進め方について理解が得られ、子どもの食育推進体制が確立してきた。今後ともこのような会議を継続して実施することで、学校における食育の推進を図っていくとともに、地域、市町村の食育推進へもつなげていくことが必要である。

・高校生を中心に小学生、中学生が積極的に食に対する取組について意見交換をし、発表をすることができた。会議が進むにつれて、積極的な様子が見られ、特に高校生は、小・中学生をうまく導く場面やアドバイスする場面など、会議は児童生徒が主体的に「食」について考える場となった。

・児童生徒の主体性を培うと同時に、教職員、市町村、地域の食育関連団体等から子どもの食育推進について理解を得ることができた。学校、市町村、地域が同じ場で子どもの食育について意見を交換したことにより、相互理解を深めることができ、今後、市町村における食育推進計画を進める上で、学校と地域との連携体制ができた。

・今後は、各市町村や学校がより充実した指導を進めることが必要であり、栄養教諭の更なる実践と、食に関する指導計画の作成や学校・家庭・地域が連携した指導体制の整備を推進するなど学校における食育を充実させていかなければならない。

・推進地域の取組において、栄養教諭が教科等で教員と連携し指導し、食育通信や家庭・地域との連携による食育事業を関連づけて行うことにより、授業の中で学んだ知識が実生活とつながり、より深まりのある指導ができた。

今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

・栄養教諭が中心となって学校における食育の推進を展開しているが、食育は市町村、地域レベルで地域の課題に即した取組を行うことが効果的であることから、市町村、地域をも巻き込みながら事業を展開し、市町村に食育の実施体制をさらに移行していく必要がある。

・子どもが主体的に取り組む食育について新たな視点で事業を実施したが、この取組が定着し、県全体に広げていくためには、継続した取組が必要であり、事業を実施する際には、常に児童生徒の自主性を引き出すような取組を引き続き行っていく必要がある。

・食に関する指導の実施により、子どもたちの食への関心は高まったが、望ましい生活習慣の形成など実践力、継続性を高めるために今後も工夫が必要であるとともに、効果的に県全体に栄養教諭の取組、実践を広めるためには、県全体をカバーできる推進地域が必要である。

【青森県青森市】

テーマ1　各学年の発達段階に応じた食に関する指導の取組

① 発達段階に応じた、食に関する指導の全体計画及び学年別年間計画を作成。
② 年間計画に基づいた、体育・家庭科・学級活動等授業への参加。（学校栄養職員と共に）
- １年学級活動「いろいろな食べ物となかよくなろう」
- ２年学級活動「元気な体になろう」　生活科「給食センターで働く人たち」
- ３年保健学習「健康な生活（朝ごはん）」
- ４年保健学習「育ちゆく体とわたし」
- ５年家庭科「家族のためのバランスのよい朝食を考えよう」（食生活学習教材の活用）
- ６年家庭科「１食分の食事について考えよう（お弁当）」
- ６年保健学習「病気の予防（生活習慣病）」・

③ 給食時間にその日の食材や料理についての「お手紙」を各学級に配布し、食への関心を高める取組を行った。
④ 「食育コーナー」に写真資料を掲示し、ほたて・りんごなどの地場産物や朝食の役割についての理解を深める取組を行った。

テーマ2　学校と家庭との連携により朝食の充実を図る取組

① 食生活実態調査の実施・・・・「朝食内容の充実」が課題であることを把握。
② 「子どもの朝食について」と題した講話（給食試食会含む）を実施。
③ 保護者向け食育通信を毎月発行。
　・児童の食生活の実態や望ましい食生活について知らせ、家庭への啓発を図った。
④ PTA 研修委員会と連携し、「わが家の朝食レシピ」を募集。その応募レシピを使っての「朝食料理教室」を実施。
⑤ 朝食の役割や「わが家の朝食レシピ」を掲載した「朝食パンフレット」を作成し、全児童へ配布。
⑥ 「学童期における食生活のありかた」と題した食育講演会の実施。

テーマ3　学校と地域との連携による食に関する体験活動の充実のための取組

① 朝食の重要性や朝食レシピを地域にも広めるため
　・「朝食パンフレット」の拡大パネルを学区のスーパーに掲示。
② 食育体験料理教室の開催
　・地域のＮＰＯ法人と連携し、無農薬野菜を使った料理（収穫体験含む）作りと地域に伝わる「くじらもち」作りを体験。
③ 食文化体験教室の開催
　・県の特産品のりんごについて専門ガイドから学びりんご狩りを体験し、津軽の郷土料理「けの汁」を学んで味わう体験。
④ 親子料理教室の開催
　・青森中央短期大学の協力による料理教室および青森市食生活改善推進員会主催の料理教室。
⑤ もちつき大会の開催
　・青森市南部中央地区社会福祉協議会・民生児童委員協議会主催。